

研究・調査報告書

報告書番号	担当
28	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Effect of dietary antioxidants and risk of oral, pharyngeal and laryngeal squamous cell carcinoma according to smoking and drinking habits. 抗酸化物質摂取の効果と、喫煙・飲酒に伴う口腔・咽頭・喉頭の扁平上皮癌のリスク	
執筆者 Suzuki T, Wakai K, Matsuo K, Hirose K, Ito H, Kuriki K, Sato S, Ueda R, Hasegawa Y, Tajima K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Cancer Sci. 2006 Aug;97(8):760-7	
キーワード 抗酸化物質, 扁平上皮癌, 喫煙, 飲酒, オッズ比	
要旨 目的: これまでの介入もしくは前向き研究で、喫煙者・飲酒者において、βカロチン補給剤は、癌のリスクを下げることはないと言われ、むしろリスクを上げる可能性があると言われていた。頭頸部の扁平上皮癌と抗酸化作用物質の関係については、これまで積極的に研究がなされてきたが、喫煙者・飲酒者でその関係はどうなっているかについてはほとんど知られていなかった。	
方法: 愛知癌センターにおいて患者対照研究を行った。患者は組織学的に同定された、193人の口腔癌、132人の咽頭癌、60人の喉頭癌患者計385人、対照は年齢・性でマッチングされた非担癌者1925人である。摂取栄養素と食品群は、食物摂取頻度調査票に基づいて調査され、喫煙者・飲酒者についてロジスティックモデルを使い、多因子調整を行って、癌に関するオッズ比を求めた。	
結果: カロチン、ビタミンC、ビタミンE、野菜、果物摂取量の各変数を3分位に分けた。口腔癌・咽頭癌・喉頭癌全てを合わせてエンドポイントとした解析で、いずれの変数においても特に第3分位において有意にリスクを下がっていた、この結果は飲酒者、飲酒・喫煙両方を併せ持つ群においても同様であった。また男女ともに結果は同様であった。	
結論: 飲酒者、喫煙者、その両方を併せ持つ者においても、抗酸化物質を多く摂取することは頭頸部扁平上皮癌のリスク低下と関連があった。このことより、食事による抗酸化物質摂取により、飲酒者や喫煙者で頭頸部扁平上皮癌を予防できる可能性が示唆された。	